

現状と課題

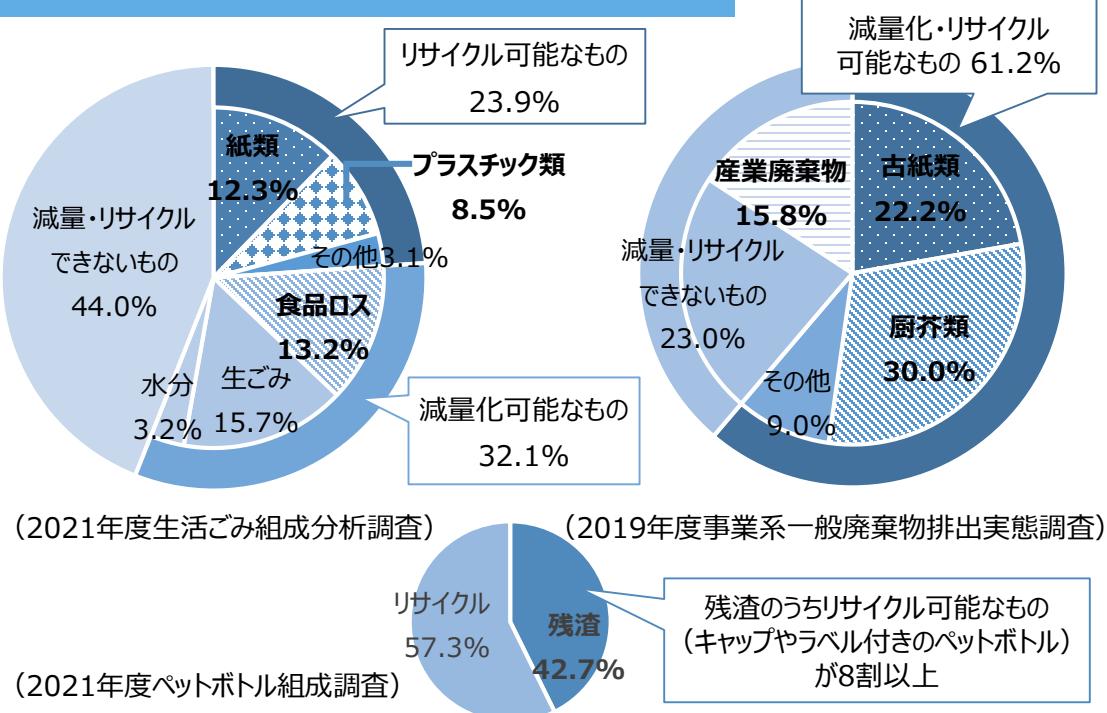
1 本市のごみ排出状況

- 市内全体の清掃工場搬入量は2017年度以降、減量が進んでいない。特に家庭系ごみの量はほぼ横ばいで推移している。
- 1人1日あたり家庭系ごみ排出量は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け2020年度に増加した。その後2021年度に減少に転じている。

2 課題

- 食品ロス、ファッションロス、海洋プラスチックごみ等ごみに関する環境問題
- ごみ処理過程で排出されるCO2の地球温暖化への影響
- 清掃工場の老朽化、高稼働状態

ごみ減量の可能性



堺・ごみ減量4R大作戦の概要

現状と課題を鑑み、2022年度、2023年度をごみ減量に集中的に取り組む期間と位置づけ、新たなプロジェクトを実施する。

1 目的

- ごみに関わる環境問題の解決
- 安定的なごみ処理体制の構築

2 実施期間

2022年7月～2024年3月

3 目標

- 堺市基本計画KPIの2025目標値の早期達成をめざす。
- 減少傾向を確実にすることで、堺市一般廃棄物処理基本計画及び堺市SDGs未来都市計画の2030年度目標値・KPIの達成をめざす。

指標	2021年度 (現状)	2023年度 (目標)
1人1日当たり 家庭系ごみ排出量	638g (実績値)	620g以下
年間清掃工場 搬入量	24.5万t (実績値) 25.2万t (推計値) ※	24.1万t以下

※実績値に新型コロナウイルス感染症の影響により減少した一般廃棄物の量を加えた数値

1人1日当たり家庭系ごみ排出量18g削減 (実績値ベース)
年間清掃工場搬入量11,000t削減 (推計値ベース)

取組の方向性

1 主体ごとにターゲットとなるごみ種と目標値を設定

「ごみ減量の可能性」から特に減量すべきごみ種を特定し、主体ごとに目標値を設定した。

2 ごみの4R運動の推進

- 市民、事業者それぞれに対し4Rに基づく実践してほしい具体的行動内容を発信する。
- ターゲットに応じた媒体を活用して、4R運動を促進する。

3 市民の行動変容を促す新しい手法の導入

ナッジ

行動科学の知見を施策に取り入れ、市民の行動変容を促す。

- 堺市環境行動デザインチーム（SEEDs）と連携した取組の実施
- 堺エコライフポイント事業との連携

企業連携

- 協定締結事業者と連携した取組の推進する。
- 製造・販売業者等多分野の企業と連携した新たな取組を検討する。

見える化

ごみ排出状況及び目標達成状況をダッシュボード形式にして市ホームページで公開、毎月更新する。

主体	市民	事業者	市
ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> • 食品ロス • 古紙 • 使い捨てプラスチック • ペットボトル 	<ul style="list-style-type: none"> • 古紙 • 食品ロス • 一般廃棄物に混入している産業廃棄物 	<ul style="list-style-type: none"> • プラスチック類（プラ製品含む） • 古紙 • ペットボトル
目標削減量	18g/日 ※市民全体で 5,300t/年	2,365t/年	3,500t/年

令和4年度の主な施策

6月 （株）ジモティーとリユース促進に関する協定締結

7月 市ホームページに専用ページ作成し、ごみの「ダッシュボード」を公開

8～2月 その他の古紙回収袋モニター事業

9、11月 イベントでのプラスチックの分別回収

10月 食品ロス削減月間に併せたキャンペーン

11月 堺エコライフポイント事業

1月 詰め替え容器促進キャンペーン

3月 リサイクル促進月間として適正排出指導強化

通年 ペットボトル残渣率削減モデル校区実証実験